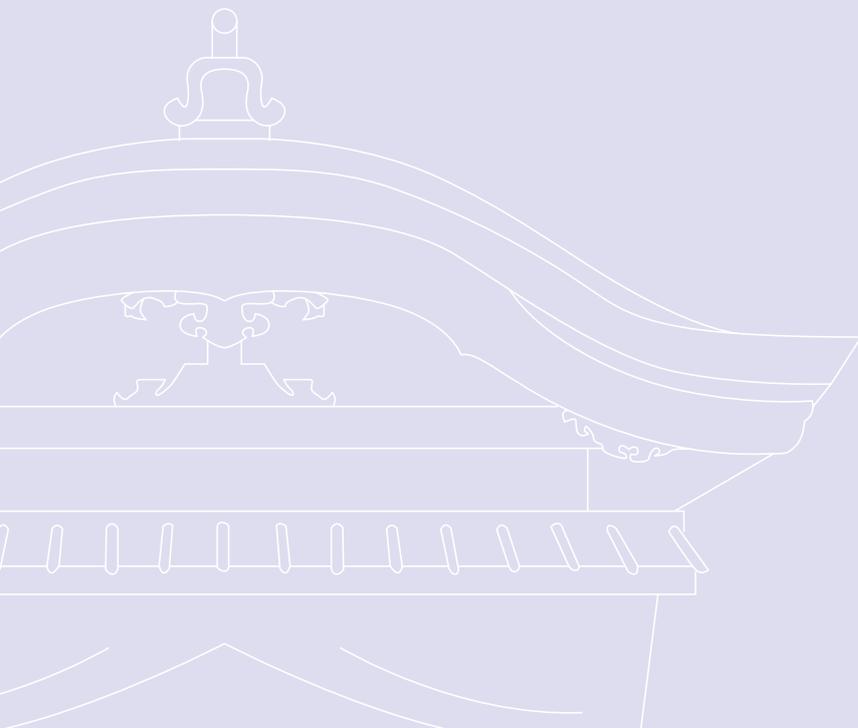


長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
長崎の伝統工芸を活用した教育実践
2005～2016



長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
長崎の伝統工芸を活用した教育実践
2005～2016



長崎伝統工芸まつり



体験工房（陶芸絵付け体験）



くんち三七五年展 長崎刺繍実演



ステンドグラス体験



べっ甲細工の製作



銀細工体験



佐世保独楽絵付け体験



型染め体験

ごあいさつ

長崎歴史文化博物館
館長 大堀 哲

2005年秋に長崎歴史文化博物館が開館してから、今年で12年目を迎えようとしています。地域とともに歩む開かれた博物館、進化する博物館をめざして運営に取り組んでまいりました。博物館の使命である調査研究活動の強化とともに、開館以来、博物館が培ってきた英知や経験を地域に還元すべく、教育活動にも力を注いでまいりました。教育活動を社会と博物館をつなぐ活動と捉えるならば、その対象は、学校、子ども、地域住民、高齢者、障害者など社会を構成するありとあらゆる人になります。当博物館では、できる限り対象別にきめ細かなプログラムを提供できるよう様々な企画を考え実施してまいりました。

それらの教育活動の成果をテーマごとにまとめたものがこの教育実践報告書です。これまで、「出会いが生み出す学びのレシピ」「地域との連携—ボランティア—」「アウトリーチ活動」「市民と連携した教育実践」の4冊の報告書を発行してきました。

本報告書では「長崎の伝統工芸を活用した教育実践」と題し、長崎の伝統工芸について博物館がどのように情報発信し、プログラムを提供しているのかを教育の視点から紹介しています。ここに紹介している活動は、伝統工芸体験工房という施設を併設している博物館だからこその極めてユニークなものといえるでしょう。

これまで当博物館の教育活動に労を惜しまず協力してくださった長崎陶芸復興塾、長崎刺繍再発見塾、長崎の染塾、長崎やけんステンドグラス塾、長崎銀細工研究塾、川政べっ甲製作所、佐世保独楽本舗、陶彩・花と風のスタッフのみなさまにこの場を借りて改めて感謝申し上げます。伝統工芸の衰退が囁かれる今、長崎の伝統工芸の発信と継承のために博物館が少しでも貢献できれば喜ばしい限りです。

目次

博物館で伝統工芸に触れる、つくる、発信する	01
1. 伝統工芸体験工房との連携	
伝統工芸体験工房を拠点とした市民との連携	05
(1) 長崎陶芸復興塾	07
(2) 「長崎刺繍」再発見塾	13
(3) 長崎の染塾	17
(4) 長崎やけんステンドグラス塾	22
(5) 長崎銀細工研究塾	26
2. 伝統工芸職人との連携	
伝統工芸職人とのふれあい	33
(1) 川政べっ甲製作所	34
(2) 佐世保独楽本舗	38
(3) 陶彩 花と風	43
3. 利用者の視点から考える	
特別支援学校から見た博物館の利用についてー伝統工芸体験を中心にー	47
視覚に障害のある児童・生徒の立場から見た長崎歴史博物館での体験活動について	49

博物館で伝統工芸に触れる、つくる、発信する

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

長崎歴史文化博物館の常設展示室には長崎県内の工芸品を紹介する展示室がある。亀山焼、現川焼、長与焼、波佐見焼、三川内焼など江戸時代に開窯したやきもののほか、ガラス、南蛮漆器、青貝細工、長崎刺繍、鼈甲、銀細工、金工作品を展示している。工芸品においても、江戸時代、国際貿易都市として中国やヨーロッパとの交流があった長崎ならではの特色ある作品が生み出されてきた。この展示室では主に江戸時代から明治時代にかけて長崎でつくられた工芸品の優品の数々が展示されている。

近世から幕末明治にかけて華開いたそれらの工芸品は、国内向けのものばかりでなく、ヨーロッパの王侯貴族の注文を受けてつくられたものもある。それらは職人の技術の粋を集めた傑作で、今なお私たちの心を惹きつける。しかしながら、それらの工芸作品の多くは、需要の縮小や後継者の断絶などの理由により、時代とともに生産が途絶えてしまったものがほとんどである。

やきものについては、江戸時代から現在まで途絶えることなく生産が続いているのは波佐見焼と三川内焼のみである。アワビ貝を薄く削って模様を施した螺鈿細工の一種である青貝細工も大正時代で生産が途絶えてしまった。長崎伝統の秋の大祭、長崎くんちとともに発展してきた長崎刺繍も、現在、技術を継承するたった一人の職人によってかろうじて続いている状況である。おそらく、現在でも長崎の伝統工芸品として一定の職人数と生産量を維持し、生産が続けられているのは鼈甲細工のみであろう。今年2017年1月、長崎べっ甲が経済産業省によって国の伝統的工芸品に指定されるという嬉しいニュースが発表された。これが長崎べっ甲のこれからの発展を後押ししてくれることを期待したい。

このような伝統工芸をとりまく厳しい状況のなかで、博物館として地域の伝統工芸とどう向き合っていくべきなのだろうか。博物館では工芸展示室の展示を通して過去のすぐれた作品に触れてもらう場を提供している以外に、博物館内に伝統工芸体験工房と貸工房という施設を設置している。貸工房には職人が常駐し、べっ甲製品の制作と販売、来館者向けの制作体験の指導を行っている。また週1回の頻度で佐世保独楽の職人が来て、絵付け体験の指導や実演、販売を行っている。2005年の博物館が開館した年からはばらくの期間は五島の伝統工芸であるバラモン風の制作、絵付け体験も行っていった。しかし、担当していた職人が亡くなられたために、それをもってバラモン風の絵付け体験活動は終了せざるを得なくなった。また2016年4月からは、長崎出身の陶芸家にスペースを貸し出し、陶芸の展示販売を行っている。

職人にスペースを貸し出し、制作販売を行う貸工房に対して、伝統工芸の制作に取り組む市民のボランティア活動の受け皿として機能しているのが伝統工芸体験工房である。これはもともと博物館が開館する2005年以前より長崎市が進めていた伝習塾事業の一環として行われていた活動で、市の事業として博物館のなかに伝統工芸体験工房を設置することが建設の設計段階から組み込まれていた。伝習塾事業とは、長崎の歴史や文化をテーマにした活動を通して長崎のまちづくりに貢献する活動を市民から募集し、採用された活動に市が補助金を与えるもので、長崎刺繍、現川焼、染め、ステンドグラス、銀細工の5つの活動が伝習塾事業として認められ、博物館に拠点を置いて活動することになった。

5つの塾は毎日交代で体験工房を利用している。長崎刺繍については、畳の部屋で座って作業をするので、博物館内の和室を使って活動を行っている。これらの塾活動は、メンバーである塾生

が制作に取り組む場であるとともに、来館者に対しては制作体験のサポートや指導を行っている。これらの活動に関わる費用の一部は、博物館を通して市から補助が出ている。

このように長崎歴史文化博物館は、開館当初から常設展示室に工芸作品専用の展示室を備えるとともに、伝統工芸に携わる職人や市民の活動の受け皿として工房を兼ね備えていた。このすでに与えられた環境を博物館の運営にどのように生かすことができるか、市民や観光客、子どもたちにどのように発信していくことができるか考えた結果が、この報告書にまとめられている諸々の活動である。

ただ施設や設備が存在するだけでは、伝統工芸に対する理解や関心の醸成は十分に達成できない。与えられた環境や条件を有機的に結びつけ、何らかのしかけをつくることが重要であると考えた。ハードとソフトをうまく使い分けることにより、長崎の伝統工芸に対する理解を深め、情報を発信するという歴史文化博物館としての役割を実現できたのではないかと思う。体験を通して伝統工芸に触れることは、こどもの成長にも大きな影響を及ぼすであろう。本報告書の最後に紹介している特別支援学校の生徒たちが体験した事例は、本物に触れ、体験することの重要性や意味を改めて私たちに教えてくれる。

まだまだ発展途上であるが、これまでの経験を踏まえ、伝統工芸の職人や伝習塾のみなさんと協力しながら、さらなる発展をめざしていきたいと思う。長崎の伝統工芸が活気づく一助になれば幸いである。



1. 伝統工芸体験工房との連携

伝統工芸体験工房を拠点とした市民との連携

教育普及グループリーダー 竹内 有理

博物館内に併設されている伝統工芸体験工房では、伝統工芸の復興、制作に取り組む5つの市民団体が同施設を拠点に活動を行っている。5つの団体は以下の通りである。

- ・長崎陶芸復興塾
- ・「長崎刺繍」再発見塾
- ・長崎の染塾
- ・長崎やけんステンドグラス塾
- ・長崎銀細工研究塾

いずれの団体も伝習塾活動と呼ばれる長崎の歴史文化を生かしたまちづくり活動の一環として市が市民からアイデアを募集し採択された団体で、博物館の開館当初より博物館に拠点を置いて活動している。

長崎陶芸復興塾は、刷毛目の模様を特徴とする現川焼と呼ばれるやきもので、江戸時代の中期に始まり60年ほどで突如として途絶えてしまった幻のやきものである。常設展示室の工芸展示室には現在まで受け継がれてきた江戸時代に作られた貴重な作品が展示されている。長崎陶芸復興塾はこの現川焼の再現に取り組んでいる団体である。

長崎刺繍再発見塾は唯一の継承者である嘉勢照太氏の指導により長崎刺繍の制作に取り組んでいる団体である。長崎くんちの衣装や飾り等に用いられ発展してきた長崎刺繍は、もともと中国の蘇州より技術が伝わったとされ、意匠として多用される龍や獅子などにも中国の影響が見て取れる。中に綿を入れて立体的に盛り上げて作るのが特徴で、銀細工やびーどろが模様のアクセントに採り入れられるなど、長崎の伝統工芸の技術を結集して作られた作品ともいえる。その高度な技術ゆえ、後継者の育成は難しく、嘉勢照太氏がたった一人で制作や修理を一手に引き受けている状況である。長崎刺繍再発見塾は、そのような長崎刺繍を少しでも多くの人に知ってもらおうと、作品制作に取り組んでいる市民の団体である。

長崎の染塾は、江戸時代、爆発的な人気を博したインドに起源を持つ綿織物・更紗がオランダ・中国との貿易品として長崎にもたらされたことから、その復元と制作に取り組むことを目的につくられた市民の団体である。長崎ではインドやヨーロッパ産の更紗を模倣して長崎更紗なるものも作られていた。当館には長崎の貿易商人によって作られた「更紗見本帳」という更紗の端布を貼り付けた資料も残されている。

長崎やけんステンドグラス塾は外国人居留地に作られた日本で最古のキリスト教の天主堂である大浦天主堂をはじめ、教会建築を多く有する長崎のキリスト教の歴史にちなみ、ステンドグラスの制作に取り組んでいる団体である。

長崎銀細工研究塾は江戸時代、長崎奉行所ご用達の銀細工工房があり、髪飾りや長崎刺繍の飾りなど、銀細工が長崎で作られていたことにちなみ、銀細工のアクセサリーづくりに取り組んでいる団体である。銀細工職人の工房があったことから、銀屋町として今でも地名が残って

いることからその繁栄ぶりが窺える。

以上みてきたように、どの団体も長崎の歴史と深く関わりをもつ内容の活動を行っている点で共通している。これらの団体はアマチュアの団体ではあるが、市民みずからがその普及、継承活動にかかわっていること、また自分たちの経験を博物館を訪れる市民や観光客、子どもたちに伝える役割も担っているという点で、評価すべき活動といえるのではないだろうか。また博物館を訪れた来館者や子どもたちにとっても、展示を見るだけでなく、実際に制作の体験ができ、それを記念に持ち帰ることができるのは、彼らの満足度を高めることにもつながっている。伝統工芸体験工房は長崎の伝統工芸について体験を通じた記憶として持ち帰ってもらうことができる貴重な機会を提供しているといえる。



(1) 長崎陶芸復興塾

教育普及グループ 一瀬 勇士

1. 「現川焼」について

長崎県は、佐賀県とともに古くから窯業の盛んな地域として知られ、多くの名陶を育んできた歴史と文化が息づくまちである。当館では、長崎県を代表する焼き物を多数収蔵しており、常設展示室内の工芸展示室において焼き物の紹介を行っている。代表的な焼き物としては、文人画を染付で表現した「亀山焼」、色鮮やかな三彩による「長与焼」、西の仁清とも称された「現川焼」、朝鮮半島の高麗茶碗を意識した「対州焼」など、地域性豊かな焼き物群を収蔵庫展示という手法で出土品から伝世品までをわかりやすく紹介している。特に「三川内焼」や「波佐見焼」は、長崎県を代表する二大窯業産地として、今なおその伝統と技術が多くの陶工たちによって受け継がれている。

当館には、長崎県の伝統工芸を体感できる工房を併設しており、その中の一つとして、長崎県を代表する焼き物「現川焼」がある。この「現川焼」は、江戸時代に現在の長崎市現川町一帯にあった陶器窯で焼かれた焼き物をいう。諫早家の記録書である「日新記」によると1691年（元禄4）、有田の御被官であった田中刑部左衛門によって開窯されたが、約60年足らずで閉窯したため、まぼろしのやきものとされている。

現川焼の窯跡の遺構としては、観音窯（県指定史跡）や鬼木上窯などが知られているが、それ以外の窯跡や製品の特徴など大規模な発掘調査が行われていないため、未だ謎に包まれている部分も多い。こうした謎多き現川焼を現代に蘇らせたのが12代・13代の横石臥牛である。元禄以来の現川焼を再興し、繊細な刷毛目と立体的な盛り上げ技法による作品は、長崎県の無形文化財にも指定されている。

当館で活動する長崎陶芸復興塾の主な体験メニューとしては、ろくろ成形や絵付けなどがあり、現川焼の体験を通して、生活食器として身近な存在である「やきもの」に少しでも興味・関心を持ってもらうために博物館と連携した教育普及活動を行ってきた。

2. 実施概要

2008年度以降、長崎陶芸復興塾と連携した体験活動は、20回以上を数えるまでに至っており、5つある塾のうち教育普及事業との関わりが最も深い状況となっている。

特にこどもクラブ（小中学生を対象とした体験学習）では、2009年度～2014年度にかけて器づくりと絵付けの体験をセットにした「まなびのプログラム」を実施しており、参加者自身が捏ねて、成形した器にオリジナルの絵付けを施し、一つの作品として仕上げるため好評であった。



また、夏休み期間中に実施している体験活動では、主に素焼きの湯飲みに絵付けを施すプログラムを実施しており、例年多くの応募をいただいている。このプログラムの特徴としては、通常の体験プログラムでは、体験のみであるが、夏休みに実施する陶芸体験に限っては、博物館の工芸展示室に陳列している本物の現川焼（やきもの資料を中心に）を学芸員の解説付きで紹介している。

博物館で体験活動を行う強みを活かし、江戸時代の本物の作品を子どもたちに紹介することで、体験活動に付加価値を付与するだけでなく、焼き物への興味・関心が更に倍増するきっかけになれば幸いである。



こどもたちの発想は、実に自由・奇抜なものばかりである。大人も驚くような作品に出会うこともあれば、摩訶不思議な絵を描く子どもたちもいる。真剣な眼差しで作った作品を夏休みの課題作品として取り組む子どももいれば、夏休みの思い出づくりとして取り組む子どもたちもいる。中には、子どもよりも付き添いで来た保護者の方が熱中している姿を見かける場合もある。動機はどうかであれ、博物館に来て陶芸体験を行うことに意義があると感じている。

長崎陶芸復興塾と連携した他の取り組みとしては、長崎伝統工芸まつりでの展示即売会や企画展の関連イベントとして連携した実績がある。過去には、長崎奉行所・夏祭りでも出店協力していただいたこともあった。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
長崎の伝統工芸を体験してみよう! 陶芸(現川焼)	2008年8月25日(月)~26日(火) 13:30~/15:00~	場 所:1階エントランス 参加費:500円 対 象:小学生以上	37名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2009年7月31日(金)、8月14日(金) 13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:500円	122名
[れきぶん子どもクラブ] オリジナルの器づくり (陶芸)	2009年11月28日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	21名
[れきぶん子どもクラブ] 絵付けに挑戦(陶芸)	2010年1月9日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	18名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2010年7月23日(金)、7月30日(金) 10:30~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:500円	58名
[れきぶん子どもクラブ] オリジナルの器づくり (陶芸)	2010年10月30日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	18名
[れきぶん子どもクラブ] 器にえがこう (絵付け)	2010年12月11日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	18名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2011年7月25日(月)~7月26日(火)、7月28日(木) 10:30~/13:30~	場 所:体験工房 参加費:500円	117名
[れきぶん子どもクラブ] ねんどで器づくり	2011年11月5日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	23名
[れきぶん子どもクラブ] 器に絵付け	2011年12月17日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	24名

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2012年7月24日(火)、7月31日(火)、8月3日(金) 10:30~/13:30~	場 所:1階講座室 参加費:500円	110名
[れきぶん子どもクラブ] ねんどで器づくり	2012年11月23日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	23名
[れきぶん子どもクラブ] 器に絵付け	2013年1月12日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	24名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2013年7月22日(月)、7月26日(金)、7月29日(月) 10:30~/13:30~	場 所:1階講座室 参加費:500円	247名
[れきぶん子どもクラブ] 粘土でつくるオリジナル の器	2013年12月14日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	18名
[れきぶん子どもクラブ] 器に模様をつけよう	2014年1月25日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	18名
電動ろくろで陶芸体験	2014年2月2日(日) 10:30~12:00(小中学生) 14:00~16:00(高校生以上)	場 所:体験工房	11名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2014年7月19日(土)、7月20日(日)、7月21日(月) 10:30~/13:30~	場 所:1階講座室 参加費:500円	135名
[れきぶん子どもクラブ] 粘土でつくるオリジナル の器	2014年11月29日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	12名
[れきぶん子どもクラブ] 器に模様をつけよう	2015年1月10日(土) 14:00~16:00	場 所:1階講座室	14名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2015年7月21日(火)、7月27日(月)、7月31日(金) 10:30~/13:30~	場 所:1階講座室 参加費:500円	140名
伝統工芸体験 陶芸(現川焼)	2016年7月18日(月祝)、7月25日(月)、8月1日(月) 10:30~/13:30~	場 所:1階講座室 参加費:500円	138名

3. 成果と課題

現川焼の最大の特徴は、洗練されたチョコレート色に筆さばき鮮やかな白化粧土による刷毛目文様の美しさである。この点については、夏休みの工芸展示室での解説においても、刷毛目文様について触れ、モチーフとなっているデザインや器の形態について触れるよう心がけている。また、常設展示室内に再現している町屋には、現川焼の素焼きから完成までの工程をわかりやすく紹介した見本模型を紹介しており、作品づく



りを行う前のイメージ形成に大きな効果を発揮している。

さらに、長崎伝統工芸まつりや2015年に開催した企画展「魅惑の清朝陶磁」では、電動ろくろを使った陶芸体験を実施し、概ね参加者からは好評であった。最近では、土や粘土に触れる機会が失われつつある中、こうした取り組みが当館で実現できるのも長崎陶芸復興塾があるからにはほかならない。

博物館の持つ強みは、何と云っても本物の資料を持っている点である。そこに長崎陶芸復興塾の確かな技術と人的なサポートが加わることでより効果的な体験プログラムを提供することを可能にしている。

しかし、良い面ばかりではなく、課題として浮き彫りになっている側面もある。ここ数年は、体験プログラムのマンネリ化や指導していただく塾生メンバーの恒常的な確保の問題が挙げられる。

また、こどもクラブでは、2014年度を最後に長崎陶芸復興塾への関わりが途絶えている状況である。冒頭で紹介したとおり、長崎県はやきものが盛んな地域であるため、現川焼だけではなく、波佐見焼や三川内焼などもあり、そうした地域の焼き物にもスポットをあて、普及活動を展開していく県立博物館としての機能と役割も担っている。

今後は、柔軟な姿勢で地域性豊かな長崎のやきもの文化をいかに子どもたちに伝えていくかが大きな課題ではないだろうか。



まぼろしの陶器 現川焼

長崎陶芸復興塾
絵付講師 鐘ヶ江 裕美

2005年（平成17）、長崎歴史文化博物館の開館と同じくして、陶芸体験を行う工房が博物館の敷地内に開設されました。

まず、体験工房を始めるにあたって、3年間の準備期間がありました。

塾生ボランティアの中には、初めて経験する土との出会いやロクロを挽くことも初めてと言う方もおり、試行錯誤をしながらのスタートでした。



現川で窯を開いていた方に指導を仰ぎ、長崎歴史文化博物館に収蔵されている多くの資料・古作を手本としながら学ばせて頂き、11年目を迎えることができました。

現川焼の体験メニューとしては、ロクロ体験・手びねり体験・湯飲み生地の絵付け体験を行っています。

体験予約は、長崎歴史文化博物館のホームページやリーフレットなどをご覧いただき、博物館へ直接予約を行っていただいています。

陶芸塾では2年前からブログを開設しており、体験の様子を撮影し、公開することで多くの皆様に興味・関心を持っていただけるよう情報発信につとめています。

利用者の多くは、長崎県内の方が多く状況ですが、観光地長崎として、他県から利用いただく方も徐々に増えてきております。また、博物館を窓口として学校や一般団体からの利用もいただいております。

博物館の年中行事に参加する機会として、体験工房に参加している5塾共同の伝統工芸まつり、7月・8月は小中学生を対象とした夏休み絵付体験教室を実施しています。夏休みに行っている絵付体験教室には、3日間で150名ほどの参加者があり、例年夏休みの提出課題として取り組んでもらえるよう、湯飲みの絵付体験を行っています。

塾生活動としては、体験指導ができるように月3回～5回のロクロ作陶と絵付練習を行っています。

当塾は、現川焼の復興と普及活動を目的に設立された団体のため、現川焼の古作を基にして、黒土に白化粧の刷毛目を施しています。特に現川焼は、刷毛目文様が美しく、形状に合った文様をつけることに特徴があります。

340年前の陶工たちが残した現川焼は、洗練された優雅な雰囲気を醸し出しています。

絵付けは、陶器には見られない古作に表現された繊細な絵を見本としながら、実寸で形や絵の再現にも意欲的に挑戦しています。

他の作陶生地、マグカップ、花瓶などには古い文様をモチーフにして生かしています。

また、皆様に現川焼を身近な生活の中で使用していただくために販売も行っています。販売先としては、博物館内にあるミュージアムショップをはじめ、年に一度は街中で販売も行って

います。

我々塾生一同は、代々受け継がれてきた現川焼の伝統を継承し、次世代に伝えていくためにも日々、研究と努力を重ねています。

現在活動している塾生は、20名ほどで、ボランティアとして塾活動の運営に携わっています。毎年、長崎市の広報誌などで新規の募集がありますが、少数の応募のため、ボランティア活動に参加する人数を確保していくことが、ここ数年の課題となっています。

長崎歴史文化博物館を多くの皆様にご利用いただき、長崎の焼物を代表する「現川焼」に少しでも興味・関心を持っていただければ幸いです。

体験工房で実際に体験することが、受け継がれてきた伝統の技術と歴史を学ぶ第一歩ではないでしょうか。

ボランティア活動を通じて、多くの仲間たちと出会い、新しい作品に出会えることが私たちの生きがいとなっています。

この機会にぜひ、まぼろしの陶器と呼ばれた現川焼の体験を行ってみませんか？



現川焼 銀杏文皿（当館収蔵）

(2)「長崎刺繍」再発見塾

教育普及グループ 松岡 めぐみ

1. 実施概要

当館の工芸展示室では通年、長崎刺繍の施された長崎くんち衣裳を見ることができる。この華麗なる刺繍文化は、長崎が日本で唯一異国に開かれた貿易港であった江戸時代、中国から質のよい生糸と刺繍の技術がもたらされたことに始まるとされる。明治以降は縫師が減少し、現在では嘉勢照太氏が唯一の技術保持者となっているが、「長崎刺繍」再発見塾の皆さんの熱意あふれる活動は、展示ケースの中の貴重な文化財と、現在も生きている技術が確かに繋がっていることを私たちに伝えてくれる。再発見塾と博物館との連携イベントは、これまで下記のとおり実施している。



塾生によって修復された衣裳

伝統工芸体験 長崎刺繍 場所：2階立山亭

イベント名	開催日時	参加費	参加者数
糸より・刺繍体験	2006年1月5日(金)	無料	5名
れきぶんの夏休み 長崎刺繍体験	2007年8月12日(日) ①13:00~15:00 ②15:00~17:00	500円	21名
	2008年8月8日(日)、29日(金) ①13:00~ ②15:00~	800円(当日1,000円)	33名
	2009年8月7日(日)、28日(金) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	34名
	2010年8月6日(金)、20日(金) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円	36名
	2011年7月29日(金)、8月19日(金) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	33名
	2012年7月27日(金)、8月24日(金) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	38名
	2013年7月27日(土)、8月17日(土) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	46名
	2014年7月27日(日)、8月17日(日) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	38名
	2015年7月26日(日)、8月23日(日) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円(当日1,000円)	28名
	2016年7月29日(金)、8月13日(土)、26日(金) ①10:00~12:30 ②13:30~16:00	800円	57名

「くんち三七五年展」関連イベント

イベント名	開催日時	場所・参加費	参加者数
長崎刺繍体験	2009年 9月18日(金)、19日(日)、20日(日)、25日(金)、 10月2日(金)、9日(金)、16日(金)、17日(土)、 18日(日) 9:00~18:00(随時受付)	場 所：2階立山亭 参加費：300~1,000円	39名
刺繍と糸より実演	2009年 9月13日(日)、20日(日)、27日(日)、 10月4日(日)、11日(日)、18日(日) 10:00~12:00/13:00~15:00	場 所：3階企画展示室 参加費：無料(要観覧券)	—

夏休みイベントとしての長崎刺繍体験は、2007年度より始まる。当初1回の体験時間は2時間程度であったが、近年では2時間30分になり、実施している伝統工芸体験の中では最も長い。また多人数が同時に針を使うため、安全への配慮として、夏休みイベントとして募集を行う際には対象を小学3年生～中学生としている。2015年度までは、常設展示室の長崎刺繍作品を見学する時間を含むこともあったが、2016年度の夏休みは、会場となる立山亭内で、間近で作品を鑑賞してから刺繍体験を始めるという進め方であった。



展覧会に関わる部分では、2009年の企画展「くunchi三七五年展」の際、嘉勢照太氏の手がけた作品を展示するほか、関連イベントとして刺繍体験や実演を多数回にわたり行っていただいた。また館外では、神戸ファッション美術館の「超絶刺繍Ⅱ一神に捧げるわざ、人に捧げるわざー」展、八代市立博物館の「豪華絢爛！長崎刺繍」展（いずれも2015年）に、江戸時代に制作されたものから嘉勢氏の手がけたものまでさまざまな資料が出品され、長崎刺繍を県外の人々にも広く紹介する機会となった。

2. 成果と課題

2016年の夏休み体験の際に鑑賞したのは、長崎くunchiで用いられる衣裳や、塾生の皆さんが長い年月をかけて復元した「十二支」の傘鉾垂れなどである。参加者が実際に制作するのは、手のひらよりも小さな桜やペンギンの刺繍だが、くunchi衣裳や傘鉾垂れに見られるような刺繍は、大きく立体的でずっしりと重さのあるものが多い。子供たちは、同じ糸からこれほど違うものができるということを知った上で、針を持ち糸を刺していく。大きな作品を作るのがどんなに大変なことか想像も膨らみ、学びを深めるのに効果的だろう。

体験者の中には、家でも刺繍をやってみようと思い始める子供たちもいる。博物館で体験したことを一部分だけでも、帰ってからまたやってみようという気持ちが彼らに芽生えることは、我々博物館の職員にとってとても嬉しいことだ。しかし、普通の刺繍ならいざ知らず、「本物の」長崎刺繍はいま現在、博物館のこの場所でなければ体験できないのである。長崎刺繍の絹糸は、京都から取り寄せた特別なもので、造形に合わせて縫り方や太さを調整して用いる。塾生の皆さんが使用している道具類も、家庭にはないものだ。

博物館は、家や学校でも実践できることを学ぶ場所でもあるが、反対にそこでしかできない体験を提供する場所でもある。伝統工芸は、広い意味の「芸術」に含めることもできるが、誰もが自由な発想で作ることのできるそれとは一線を画す「技術」である。自由に作る楽しさとはまた別で、見本と同じように緻密に作ることに意味があるということ、そしてそのことが持つ力を、来館者が少しでも感じられるよう、今後も体験の場を続けていきたい。また塾生の皆さんにとって、博物館で活動することが、途絶えかけていた長崎刺繍をこれからも長く伝えていくための原動力となっているのなら幸いである。

「長崎刺繍」再発見塾活動と体験工房

「長崎刺繍」再発見塾
塾長 嘉勢 路子

長崎歴史文化博物館内の体験工房として活動する3年前、市の「長崎伝習所」活動として、2002年に「長崎刺繍」再発見塾はスタートした。その頃の長崎刺繍は、伝統工芸ではあるが途絶えたものという認識をされていた。刺繍職人として現在塾の講師を務める嘉勢照太（県指定無形文化財「長崎刺繍」技術保持者）の存在も殆ど知られておらず、長崎刺繍に関する資料も乏しい状況であった。その中で「長崎刺繍」を再発見していきたいとの思いでこの塾が生まれ、博物館のオープンと共に体験工房としての活動が始まった。「通常の和室の照明では刺繍はできないからもっと明るくしてほしい」と要望を出し、立山亭に設置された特殊な照明は、私達の活動の支えとなっている。



体験工房は年間75日、のべ264人で活動している。体験内容は以下のとおりである。

①桜の刺繍

桜刺繍体験キットの準備は、工房オリジナルの紙枠に絹地を張り、糸を縫ってセットするまでかなりの手間と時間がかかる。小学生から大人まで年齢・性別を問わず本物の体験ができ、完成品は持ち帰ってもらう。これが1000円という体験料で可能なのは、習熟したボランティアスタッフに支えられているからである。

②ペンギン型刺繍

長崎刺繍の特徴の一つである盛り上げを取り入れたいと考案したもので、布でありながら型がキープされ針が刺せるという特別な型を作り上げた。ペンギンにしたのは、長崎ペンギン水族館の存在を意識した事と、お腹の膨らみを①の桜とは異なる「刺し縫い」という技法で体験できるようにというねらいがある。

③糸より

誰でも気軽に絹糸に触れてもらいたいとの思いで取り入れた。日本刺繍は糸を縫る所からスタートし、縫り具合で刺繍の質感や出来ばえも変化する。誰でもできるが一番難しいのが糸よりなのだ。

④その他

体験に加えて、実物の作品と、長崎刺繍の歴史や現状を紹介するミックスタイプ。

このような質の良い刺繍体験は、ここでしか実現できない事だと自負している。博物館との連携で毎年恒例となった夏休みの子供体験・地元の高校生の体験・日独青少年国際交流団体との交流・JRななつ星乗車のお客様との交流など、一般の体験の枠を越えて刺繍文化の発信ができるようになったのは、館内での塾活動の継続の賜物と思う。

体験工房を維持するには、ボランティアスタッフの養成が不可欠である。幸い塾生はピーク時で42名、現在は32名で《細く長く》を合言葉に継続している。塾生の為の研修は月1～2回実施している。「プロではないけど趣味でもない」という事を理解し《今しかできない・私達しかできない事をやりましょう》というスローガンのもと、桶屋町傘鉾垂れ「十二支」（市指定有形文化財）の復元を、見学と資料作りから始め、8年をかけてのべ108人の力を合わせて行った。また、3mの長さの出島絵図を約3年、川原慶賀の作品を基にした「曲芸の図」を約2年半かけて完成させ、現在はオペラ「蝶々夫人」をイメージした衣装制作という新しい夢に向かっている。塾生は徐々に実力がつき、博物館のミュージアムショップや魚の町の「もてなしや」で、桜コースターや紫陽花ブローチを販売できるようにもなった。

その他、元船町飾船頭衣裳制作（2009年使用）、手つかずの古い飾船頭衣裳の補修（2010年使用）、出島町傘鉾垂れの補修（2011年使用）と、長崎刺繍を守る為に市民の力を結集し、長崎くんちに少しでも貢献できたことを嬉しくそして誇りに思う。

このように多様な活動ができるようになったのは、個人のレベルではなく公の博物館での活動・研修を継続する意味と価値を、塾生が実感しているからだと思う。ボランティア活動は、主体性を持ち自分が楽しめなくては続かない。これからも地道に研修を重ねながら、博物館との連携を大切に、市民力を発揮できる場にしていきたい。



(3) 長崎の染塾

教育普及グループ 一瀬 勇士

1. 長崎の「染め」について

江戸時代、国際貿易都市として発展してきた長崎には、ヨーロッパ産の毛織物や中国産の絹織物など舶来品が集まり、日本人の生活に欠かせないものとして受け入れられてきた。

多種多様な染織品の中でも、ひときわ多くの人々を魅了してやまなかったのは、インド伝統の技法によって色鮮やかに染め上げられた木綿布＝「更紗」ではなかっただろうか。



羅紗更紗見本帳（当館収蔵）

当館には、更紗見本帳と呼ばれる資料をいくつか収蔵しており、当時の貿易の様子を窺い知る貴重な資料となっている。

色鮮やかな染め模様が特徴の更紗は、次第に日本中を席卷し、町人文化の高まりとともに、人々の装いの趣向や服飾文化に大きな影響を与えたとされている。舶載時は、大きな反物であったと考えられるが、種々の用途に用いられることの多かった更紗は、細かく裁断され、小さな裂（端布）として今日に伝えられている。

1787年（天明7）、蘭学者としても知られる森島中良の『紅毛雑話』に次のような記述が残されている。「皿紗は南^{いんてあ}帝亜の地スラタといふ国より出すとなり。…さらさといふはスラタsulatの転語なるべしと通詞の説に聞えり」とあり、インドの積出港に由来していると伝えている。このインド原産の更紗であるが、オランダ東インド会社を通じて、日本人好みのデザインや文様が徐々に国内にも流通するようになったが、大名家にもいくつかの更紗裂が伝来している。有名なものとしては、彦根藩井伊家に伝来したインド更紗の断片を集めた彦根更紗（東京国立博物館保管）があり、450種ほどの輸入更紗が収められている。

また、長崎においては、江戸時代に染物屋が多く集まって形成された紺屋町がある。現在の紺屋町は、かつて存在した今紺屋町と中紺屋町の位置にある。1875年（明治8）に合併し紺屋町となるが、町内に相次いで公共施設（公会堂・市民会館）が建設されたことにより、町域は狭められる結果となった。更には1966年（昭和41）の町名変更に伴い、諏訪町と麴屋町の一部に分かれ、紺屋町の名は消失してしまった。

しかし、長崎くんちには、旧来の町名である「紺屋町」として参加しており、中島川で反物を染めていた職人町としての雰囲気再現した本踊を奉納している。

2. 実施概要

当館で活動している長崎の染塾は、長崎貿易によって発展してきた紺屋町の伝統を受け継ぎ、長崎更紗の継承と服飾文化をテーマに2002年（平成14）に開塾したボランティアグループである。主な体験メニューとしては、型絵染めのコースターや手提げ袋への染付体験がある。体験料も作品によって多少異なるが、500円からと手ごろな料金で体験することができる。

染塾との具体的な連携実績としては、他の塾同様に伝統工芸まつりや夏休みの体験活動の連携が中心である。特に染め体験は、型絵染めの内容となっていることから、比較的幼児でも体験することが可能である。

また、自分の好きな型絵やカラーを選べることができるため、五塾の中でも人気が高い。型絵の種類は100類以上あり、洋型紙を染塾では採用している。本来であれば、柿渋の型紙が望ましいが、洋型紙の方が水による伸縮を受けにくく、耐久性が高いため、何度も型紙を利用できるという特徴がある。

染塾との連携において、新たな試みとなったのが企画展と連動したイベントへの協力であった。開館10周年記念特別展として実施した「日独修好150年の歴史 国際都市・長崎からみたドイツ～もうひとつの交流史～」〈開催期間：2015年9月19日（土）から11月29日（日）〉では、主に関連イベントとして長崎の染塾にドイツにちなんだデザインのエコバッグづくりや展示への出品、ドイツフェアへの出店などの協力をいただいた。

さらに、2015年の企画展における連携をきっかけとして、2016年の夏に実施した「エヴァンゲリオン展」の関連イベントにおいても、アニメで登場するキャラクターを模した図柄の型染め体験を企画したところ、予想以上の反響があり、好評を得ることができた。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
長崎伝統の技 染め物体験	2007年8月11日(土) 13:00~16:00	場 所:1階エントランス 参加費:300円	41名
長崎の伝統工芸を体験 してみよう! 染め	2008年8月5日(火)、8月28日(木) 13:00~/14:00~/15:00~	場 所:1階エントランス 参加費:500円	86名
伝統工芸体験 染め	2009年7月30日(木)、8月20日(木) 13:00~/14:00~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:500円	91名
	2010年7月29日(木)、8月12日(木) 10:30~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:600円	131名
	2011年7月18日(月祝)、8月21日(日) 10:00~/11:30~/13:30~/15:00~		137名
	2012年7月29日(日)、8月23日(木) 10:00~/11:30~/13:30~/15:00~		137名
	2013年7月25日(木)、8月20日(火) 10:00~/11:30~/13:30~/15:00~		135名
	2014年7月31日(木)、8月3日(日) 10:30~/11:30~/13:30~/14:30~		131名
	2015年7月24日(金)、8月7日(金) 10:30~/11:30~/13:30~/14:30~		132名
エコバッグづくり ※企画展連携イベント	2015年11月7日(土)~11月8日(日) 10:30~/13:30~		
伝統工芸体験 染め	2016年7月21日(木)、7月22日(金)、 8月21日(日) 10:30~/11:30~/13:30~/14:30~		136名
エコバッグづくり ※企画展連携イベント	2016年7月24日(日)、8月20日(土) 10:30~/13:30~		34名

3. 成果と課題

当館の染め体験は、型紙のバリエーションが豊富に取り揃えられているため、選ぶ楽しさや好きなカラーでオリジナルの作品を作り上げることができる点が参加者に受け入れられている。特に染め体験は、幼児から親しむことができるため、親子一緒になって作品づくりを楽しむことも可能である。そのため、染摺の体験活動は、幼児期から地域の歴史文化に触れ、博物館に親しむ一つのきっかけになっている。

また、2015年と2016年では、企画展と連動したプログラムを染摺と連携して取り組むことができた。通常の体験メニューにはないオリジナルデザインによるエコバッグづくりは、参加者の満足度も高く、今後の連携手段を検討していくうえでも、貴重な機会となった。

今後の連携の課題としては、いかに博物館で有している歴史資料と結びつけて、体験活動の充実化を図っていくかがあげられる。常設展示室内では、長崎貿易を紹介したコーナーがあり、見本資料を間近で見たり、触ったりすることも可能である。このように常設展示室との連動を試みながら、有機的かつ継続的な体験プログラムの実践に取り組んでいきたい。



長崎の染塾の活動を振り返って

長崎の染塾
塾長 松尾 淑子

長崎の染塾は、「行政提案型」の塾として、平成14年4月に開塾しました。開塾の経緯は、染塾講師をお願いしている寺田貴子先生に、行政より「長崎更紗の塾を開設できないか」という相談があったことが始まりでした。しかし、長崎では伝統的な更紗染めが行われてきたことがありませんでしたので、工芸染織全般や基礎的な技法と理論を学びました。

塾活動の目的としては、長崎に住む人や長崎を訪れる人にとって魅力的で豊かさを実感できる長崎のまちづくりに寄与することで、長崎の衣文化を再認識し、その成果をボランティア活動を通して市民や、観光客に体験型で伝えていくことのできる技術者の育成をはじめ、絞り染め、型絵染め、貝紫染めなど伝統的な染めについて、染色工芸アパレルデザイン論担当の堀野美沙子先生、型絵染め工芸家の木村昌先生、染色加工学担当の寺田貴子先生らの講師のもとで、手ほどきをして頂きました。講義はアマランスの部屋を借り、実習は玉木女子短期大学の実習室を借り、場所を変えながら技術を学んできました。



平成17年11月に長崎歴史文化博物館のオープンと同時に博物館内に設けられた、伝統工芸体験工房に場所を移り、塾活動を始めることになりました。長崎では染めの資料が少ない中で長崎歴史文化博物館という専門的な施設内での塾活動は大変ありがたいことでした。

また、博物館の染め資料である「羅紗更紗見本帳」や「寅阿蘭陀船本方品代切本帳」、「ウラジオ更紗見本帳」等の染め色、図柄等を研究資料として、型をおこし制作に入ることが出来たことは大きな力となりました。現在約25名の塾生で、諫早在住の更紗収集者より更紗見本をお借りして、模倣作品を制作したり、更紗図案全体の一部を選び型をおこし、染め製作品にして販売しています。作品には、バッグ、小物入れ、タペストリー、貝紫染めのスカーフ等々です。博物館工房にて10時～16時迄染め体験を受け付けています。

染体験としては、型絵染を中心に行っており、染めつける型絵の図柄を柿渋紙に型を彫ったものを用意し、無地の手提げ袋やコースター等に染め付けをします。幼児から大人まで、それぞれの年代に合わせた染め図柄を染める事ができ摺り込み刷毛が動かせる方ならどなたでも染め作品ができることが染め塾体験の特徴だと思います。

これまでに長崎更紗の模倣作品を制作した時に「長崎新聞社」に紹介してもらったところ、県外の観光客が親子で体験されて喜ばれ、「夏休みの宿題工作にします」と言って楽しんでいただきました。また、夏休み子供体験として実施する歴史文化博物館の主催募集では、幼児から中学1年生までが参加して、染め柄の選択に迷いつつも最後まで作品づくりを行っていました。姉妹で応募する参加者もあり、昨年と違った柄を親子で相談しながら決められている姿は微笑ましい印象を受けました。また、修学旅行生との体験等では博物館の講座室を使用させて

いただきありがたいことでした。

夏休みには、学童保育の生徒もグループで体験され、大勢の時は染め体験者、残りは博物館の見学と別れて一日の工程をされるのは、体験工房が博物館の中にある特徴ではないでしょうか。これも幼児期から歴史文化博物館に足を運ぶという素晴らしい光景だと思います。

それ以外の塾活動としては、敬老会集会、企業集会への出張体験に出かけて、塾生一同技術の向上につとめています。染め制作にあたっては広い場所を要する事で、なかなか思うように形にならない事もありますが、研究をしながら染め塾の活動目的である、絞り染め、型絵染め、貝紫染め、などの伝統的な染め、歴史や特徴を研究し、伝承品、伝来品等の知識を深め、魅力ある長崎のまちづくりの明日へとつながるよう前進していきたいと塾生一同思っております。



(4) 長崎やけんステンドグラス塾

教育普及グループ 古豊 裕次郎

1. 実施概要

長崎には教会群が多く残っており、教会建築にはステンドグラスが使われている。長崎のキリスト教文化からステンドグラスを外すことはできない。博物館には、そのステンドグラスの製作に取り組んでいる塾がある。

開館当初よりGWに行っている伝統工芸まつりにおいて展示や販売、体験活動を行っている。2007年度からは、夏休みイベントとしても行っていただいている。ガラスを接着する際に、ハンダゴテや薬品を使用するため体験できる対象を小学4年生以上～中学生としている。参加者は、長崎にちなんだハタやクロス(十字架)、ペンギン、クローバー、ハートなど好きなものを選んで作ることができる。

1回の製作時間に約1時間かかるため、1日3回の計3日間で行っている。その他12月には、クリスマスに近い当番日をれきぶんのクリスマスイベントとして「ステンドグラスをつくろう」を行っている。小学4年生以上であれば、大人の方も参加できる。内容は通常の体験と一緒に、クリスマスにちなんでクロスやハートなどを中心に行っている。

また、当館ではキリシタンの歴史に関する展覧会も多く、2008年11月～2009年1月に開催した企画展「バチカンの名宝とキリシタン文化ローマ・長崎 信仰の証」、2015年2月～4月に開催した企画展「聖母が見守った奇跡～長崎の教会群とキリスト教関連遺産～」では、それぞれ関連イベントとしてワークショップを行っていただいた。2008年開催の企画展では、実施時期をクリスマス近くに、午前、午後と1日2回行い、2015年の企画展では3月の土日2日間の1日2回で開催した。どちらもキリシタンの歴史に関する企画展のイベントのため、製作前に教会建築でのステンドグラスについて説明していただき、クロスを中心に製作体験をしている。



イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
ステンドグラス	2006年2月6日(火)~8日(木)	場所:伝統工芸体験工房 参加費:無料	—
長崎の伝統工芸を体験してみよう! ステンドグラス	2008年8月4日(月)~7日(木) 13:00~/14:00~/15:00~	場 所:伝統工芸体験工房 参加費:400円~	70名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2009年8月4日(火)~6日(木) 11:00~/13:30~	場 所:体験工房 参加費:400円~	52名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2010年8月2日(月)、3日(火)、8月5日(木) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	47名
クリスマス ステンドグラスづくり	2010年12月11日(土)、12日(日) 10:30~/14:30~	場所:体験工房 参加費:400円~	13名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2011年8月11日(木)~13日(土) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	50名
クリスマス ステンドグラスづくり	2011年12月11日(日) 10:30~/14:30~	場 所:体験工房 参加費:400円~	3名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2012年8月10日(金)~12日(日) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	50名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2013年8月8日(木)、11日(日)、12日(月) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	52名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2014年8月4日(月)~6日(水) 11:00~/13:30/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	53名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2015年7月18日(土)~20日(月) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	57名
伝統工芸体験 ステンドグラス	2016年7月16日(土)、17日(日)、8月10日(水)、 14日(日) 11:00~/13:30~/15:00~	場 所:体験工房 参加費:400円~	74名
特別企画展「バチカンの名宝とキリシタン文化ローマ・長崎 信仰の証」関連イベント クリスマス ステンドグラスづくり	2008年12月14日(日) 10:30~/14:00~	場 所:体験工房 参加費:1,000円	21名
「信徒発見」150周年事業 世界遺産推進記念特別展「聖母が見守った奇跡~長崎の教会群とキリスト教関連遺産~」関連イベント ステンドグラスをつくろう	2015年3月7日(土)、8日(日) 10:30~/14:00~	場 所:体験工房 参加費:300円~	27名

2. 成果と課題

上記でも記載した体験内容から対象学年を小学4年生以上と設定しているが、参加された保護者からは必ず目を離さないで一緒に体験するから小学1～3年生にもさせてほしいという要望が多くある。塾の方々も十分に配慮いただいているが、ヤケドや薬品の誤飲などあらゆる事故が想定され、安全に体験できる学年を設定しているため、対象は下げることにはできない。イベントの際に参加者の兄弟や姉妹がいた場合は、対象学年になったら体験できることと、塾の方が製作した作品や教会のステンドグラスの写真を見せながら説明をしている。

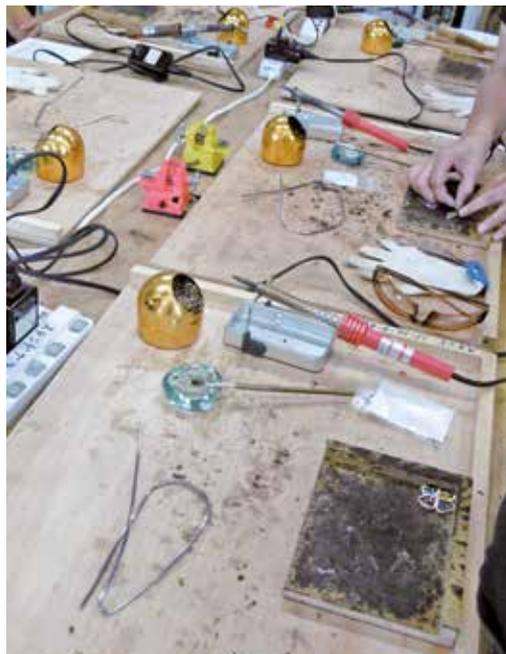
常設展示にはキリシタン関連資料の展示もあり、今後も企画展でキリシタン文化に関する展示があった場合は、長崎やけんステンドグラス塾と連携して教育普及活動を充実させ、長崎のキリシタン文化と関係の深いステンドグラスの体験を行っていることを今まで以上に周知させていきたい。



ステンドグラス体験について

長崎やけんステンドグラス塾
塾長 小笹 悦二

光がステンドグラスを透して、室内に差し込む様は現実とは思えぬ雰囲気を漂わせる。この光のファンタジーに感動するために、私たちの塾は活動を続けています。体験希望者は小学4年生以上を対象にしております。その理由はステンドグラスは完成すると美しい作品になりますが、制作過程において、強酸性の薬品の使用と、半田を熱で溶かす工程があり、学校である程度の危険に関する指導を受けられた人に絞っています。



【工房の紹介】

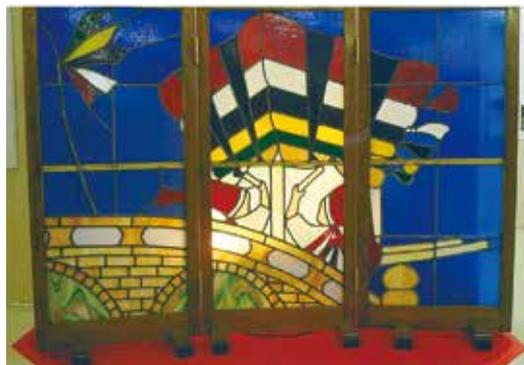
作品制作にあたり、まずイメージを描き、図案化して、それに見合ったガラスをカットします。さらにカット面を滑らかにしてから、銅テープを貼付けます。得られたパーツを図案に合わせて接合すると、イメージした作品の姿が現われます。

【博物館と連帯してよかったこと】

ステンドグラスに強い興味をもった人々がボランティアとして応募し、指導員としての役目を務めています。体験希望者は事前に予約すると確実に体験できるシステムになっております。27年度の体験者は年間510人が利用され、このうち市内279名54%、市外231名45%の比率です。季節的には5月～8月に多く来られます。また、諸外国の人達も見えられ、国際色豊かな雰囲気がみられます。博物館という知名度を生かした組織の一部として、私たちは活動しており、全国規模の組織で知られ、広範囲の地域からみえられています。特に修学旅行計画の一部に組み込まれています。このような事柄は個人的な活動では考えられないことでしょう。

【今後の課題】

これからの課題として、体験者の指導にとどまらず、芸術的な価値ある作品制作に挑戦して、塾生のレベルアップにつながるよう進みたい。現在ようやく軌道に乗った感じがしておりますが、さらに塾発展のためには塾生の補充方法なども考える必要を感じます。



(5) 長崎銀細工研究塾

教育普及グループ 一瀬 勇士

1. 長崎の「銀細工」について

16世紀半ば頃から、日本で産出された銀の量は、世界の産出量の3分の1に達するほどであったとされる。1595年にオランダのオルテリウスが刊行したティセラの『日本図』にある石見を見るとラテン語で「Argenti fodine Hivami（銀鉱山・石見）」と記されている。

日本で産出される銀を求めて、多くの中国人やポルトガル人が来航し、当時の日本貿易において重要な役割を担っていたことはよく知られている。また、中国や朝鮮半島より、進んだ精錬技術の伝播（灰吹き法）は、良質な銀の生産を飛躍的に高めた。

このような時代背景のもと、長崎は江戸時代以降、銀の貿易港として発展し、石見銀山や生野銀山など全国の産出地から集められた銀は、「丁銀」として海外へ輸出されていったのである。

長崎市内には、江戸時代に銀細工職人が居住したことに由来する「銀屋町」がある。

かつて銀屋町は、「白銀(しろがね)町」とも呼ばれ、銀細工職人のまちとして発展したが、1966年（昭和41）の町名変更によって、江戸時代以来の町名が一時的に失われた。その後、地元町民の町名復活にける想いが結実した結果、2007年（平成19）に念願の町名復帰を果たした。長崎くんちでは、「鯨太鼓」の奉納で知られているが、傘鉾の飾りには金色の出世鯉が今にも飛び上がっていく様子を勇壮華麗に表現した細工となっている。波しぶきには、町名の由来ともなった銀を使用しており、鯨が天昇して龍へと出世し、人々に幸福をもたらすという中国の故事「蓬莱鯨伝説」に基づいた意匠となっている。

銀細工に関する資料は、意外にも少なく、当時の様子を窺い知れるものは断片的なものでしか残っていない。残された記録資料を紐解いていくと、1708年（宝永5）の犯科帳に、今紺屋町の銀細工職人・久保田権左衛門が密輸の罪を犯し、投獄されたという記録が残っている。更には、シーボルトのお抱え絵師として知られる川原慶賀が、銀細工道具を描いており、当時の長崎に銀細工を生業とする職人がいたことがわかる。



「日本図」ティセラ 1595（当館収蔵）



2. 実施概要

当館では江戸時代から明治にかけてつくられた銀細工を研究対象とし、その復元や普及活動を行っているボランティアグループ「長崎銀細工研究塾」が活動している。主な体験活動としては、ペンダントやストラップ、ハート型のアクセサリーづくりなどが中心で、体験するメニューによって参加者の対象や料金は異なっている。

このように当館では、江戸時代を通じて、歴史ある銀細工の伝統と技術を継承し、その宣伝及び普及活動を行う場として、長崎銀細工研究塾と連携した取り組みを行ってきた。

具体的な連携手段としては、夏休みに開催する体験学習が中心で、チラシや募集、受付などの業務を博物館の教育普及を専門とする職員が担い、体験指導を塾生の方をお願いしている状況である。

それ以外の連携としては、ゴールデンウィークの時期に開催することが多い「長崎伝統工芸まつり」での展示即売会への出店がある。過去には、長崎奉行所・夏祭りでの出店協力を依頼したこともあった。また、修学旅行生を対象とした体験学習も実施している。

特に2008年度以降、ほぼ定期的実施している長崎伝統工芸まつりでは、当館に5つある塾（長崎陶芸復興塾、長崎刺繍再発見塾、長崎の染塾、長崎やけんステンドグラス塾、長崎銀細工研究塾）と「川政べつ甲製作所」「佐世保独楽本舗」が参加し、塾同士の交流促進と長崎の伝統工芸の宣伝・普及活動を行っている。

修学旅行での対応事例としては、2017年1月に受け入れた筑波大学附属視覚特別支援学校の実績がある。この受け入れでは、視覚障害を持った生徒への体験指導ということもあり、学校側の担当教諭との協議や塾側との連絡調整を図りながら、円滑な体験学習となるよう配慮した。当日は、職員の役割分担を明確化し、なるべく生徒がイメージしやすい説明になるようにつとめた。



イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
伝統工芸体験 長崎銀細工	2009年8月11日(火) 10:30~/14:00~	場 所:体験工房 参加費:1,000円	13名
	2010年8月10日(火) 10:30~/14:00~		10名
	2011年7月24日(日)、7月31日(日) 10:30~/14:00~		9名
	2012年8月18日(土)、8月19日(日) 10:30~/14:00~		22名
	2013年7月30日(火)、7月31日(水) 10:30~/14:00~		61名
	2014年7月26日(土)、8月23日(土) 10:30~/14:00~		30名
	2015年7月22日(水)、8月19日(水) 10:30~/14:00~		32名
	2016年7月20日(水)、7月26日(火)、8月17日(水) 10:30~/14:00~		32名

3. 成果と課題

長崎銀細工研究塾とのこれまでの連携実績を振り返ると、一貫して夏休みの体験学習や長崎伝統工芸まつりでの連携に留まっている感は否めない。

当館の常設展示室内にある工芸展示室には、本物の銀細工の髪飾り（簪）を展示しているが、展示と運動したワークショップの展開までには至っていない。その要因として考えられるのが、銀細工という高度な技術と比較的高価な素材を必要とするため、料金設定の高額化、参加対象年齢の高学年化というジレンマを抱えている。なによりも安全かつ継続的な体験活動を担保する上で、これらの制約はある程度致し方ない面もある。だが、その一方で博物館を訪れる修学旅行生や団体客の中には、博物館での体験活動を希望する需要も近年増えてきており、こうした状況に応じていくためには、これまでの体験内容の見直しや柔軟な対応も必要になってくるだろう。

また、参加者の利用状況をみると、温かい時期（春から夏にかけて）は比較的参加者も多い傾向にあるが、冬場はどうしても利用者は少ない傾向にある。季節による参加者の変動は、長崎銀細工研究塾に限ったことではないが、季節に応じた博物館との連携や体験プログラムの検討も今後の課題として挙げられる。

筑波大学附属視覚特別支援学校の対応では、長崎銀細工研究塾の方のわかりやすい指導や事前準備もあり、参加した生徒はとて満足した表情であった。銀細工のアクセサリーづくりに挑戦した女子生徒は、早速完成した作品を首元に身につけ、お互いの作品を手で撫でながら感触を確かめ合っていたのが何とも微笑ましい光景であった。

彼らの銀細工づくりは、まさに五感を使った体験そのものであり、自らの手で作品に触れ、匂いや形を感じ取りながら完成した作品は、一生の宝物になったことだろう。

子どもだけではなく大人も時を忘れるぐらい夢中になれる銀細工体験。展示室にある銀細工で施された花飾りの簪や櫛に思いを馳せながら、銀細工職人の町として栄えた銀屋町の歴史と伝統をこれからも長崎銀細工研究塾と連携しながら全国に発信していきたい。

モノづくりから始まる出会いを通じて

長崎銀細工研究塾
塾長 瀧本 悦子



「長崎銀細工」をご存知ですか？
ほとんどの人がご存じないと思います。かくいう私も、友人に誘われ銀細工の体験をするまで全く知りませんでした。

では「銀屋町」をご存知ですか？

銀屋町は平成19年に町名が復活しましたから、ご存じの人も多いのではないのでしょうか。この「銀屋町」銀細工師が多く居住していたのが名前の由来だそうです。

しかし、残念ながら現在、長崎銀細工と呼ばれるものを作っている職人はいません。以前、たまたま銀細工の体験に付き添いでいらっしゃった年配のご婦人が「私の

おじいさんが銀細工師だった」とおっしゃっていました。おそらく江戸時代生まれのおじいさんが、その家の最後の銀細工師だったのでしょう。

長崎銀細工研究塾は、平成15年に長崎伝習所の塾の一つとして誕生しました。長崎歴史文化博物館が出来てからは、体験工房で月に5～8日ほど銀細工の体験にいらっしゃったお客様のサポートを行っております。体験のメニューは当初2種類だったものが、今では4種類に増えました。

体験には、市内の人はもちろん、修学旅行生や遠くは海外からのお客様もいらっしゃいます。中には学校行事で無理矢理連れてこられたのか、嫌々作り始める生徒もいますが、ほとんどは途中から真剣な表情に変わっていきます。「銀は高いからできたら売ろう！」と言っていたのに、出来上がったら「これだけ苦労したから売らない」と言った男の子もいました。幾つになっても、出来上がった作品を身に着けたり、一緒に来た人と見せ合うときは笑顔です。

物を作ることで感じる「嬉しい」や「楽しい」気持ち。そんな気持ちを感じていただけるよう、我々塾生が微力ながらお手伝いをさせていただいております。さて、そんな我々長崎銀細工研究塾ですが、塾生の多くが50代以上という悩みがあります。技術の習得から見ると、なるべく若いうちから始めるのがいいのですが、残念ながら20代と30代は1名ずつしかおりません。塾生として参加していなければ、一生会うことがないような出会いや知らない話が聞ける。なかなかできる経験ではありません。幾つになっても、それは楽しい経験です。若い人にもどんどん参加してほしいと思っております。

「物を作るって楽しい」そう思っただけのよう、これからも頑張っていきます。



平成29年度

5つの伝統工芸を体験しよう。

体・験・工・房

長崎歴史文化博物館



日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月
4	2017	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
5	2017	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
6	2017	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
7	2017	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
8	2017	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
9	2017	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10	2017	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
11	2017	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12	2017	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1	2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
2	2018	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
3	2018	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

○ 午前10時～午後4時 体験工房は予約制です。予約は、長崎歴史文化博物館のホームページから予約できます。○ 体験工房は、長崎歴史文化博物館のホームページから予約できます。○ 体験工房は、長崎歴史文化博物館のホームページから予約できます。

【長崎銀細工研究】塾

その昔、長崎にヨーロッパの美術技術が伝わり、江戸時代には銀細工品として西文書にその名を残した「長崎銀細工」。いにしえのロマンに想像を掻き立てられながら、芸術の工芸品として育てていきたいと思っています。



修習メニュー

- アカセサリー作り（ペンダント・ストラップ・ハート）
- 時間：07:10-3:00から 09:14-00から
- 授業時間：ペンダント・ストラップ1時間、ハート20分～1時間
- 料金は1,000円

1日限りのコースで3名まで体験できます。
ペンダントは高校生から、ハートは小学生から体験できます。
小学・中学生は保護者同伴で体験いたします。
小学・中学生から体験できます。



【長崎陶芸復興】塾

道中軒匠部門が復興したと言われる、瀬戸で成長ある焼川焼。新発見焼種の特殊の木の技術が、伝承される新しい歴史江戸中瀬戸のわずかの60年で消滅してしまいました。「匠の焼き物」といわれる京焼制作をも、多くなる伝統、製作などを通じて体験してみませんか。



修習メニュー

- 陶器の土を成形して器にする体験（瀬戸焼の土を成形して作り出す）
- 時間：07:10-3:00～ 09:14-00～（道中軒匠部門）
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 料金は1,000円
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。

【長崎刺繍再発見】塾

昭和時代、中瀬戸から伝わったこととされる「長崎刺繍」は、瀬戸焼の秋の太極（おくんち）とともに独自の発展を遂げました。今、わざわざかきつけた刺繍から、「長崎刺繍」の作風、技法を学びながら半生半世の面白さを体験してみませんか。



修習メニュー

- ペンダント（まじり針の伝統的技法）
- 花の刺繍（縫製はなし）
- 時間：07:10-3:00から 09:14-00から（瀬戸焼部門）
- 料金は1,000円
- おふり、刺繍
- 時間：10分～30分
- 料金は100円～300円
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。

1日限りのコースで3名まで体験できます。
小学・中学生は保護者同伴で体験いたします。
小学・中学生から体験できます。



【長崎の染】塾

文化財として重要視されている市内中瀬戸の地で製造・輸出したと記録にも残る「長崎染物」。夏祭りの装束や手拭きを通してみませんか。



修習メニュー

- 夏祭りのコース（手拭き袋作り）
- 時間：07:10-3:00から 09:14-00から（瀬戸焼部門）
- 料金は500円から
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。

1日限りのコースで3名まで体験できます。
小学・中学生は保護者同伴で体験いたします。
小学・中学生から体験できます。



【長崎やけんステンドグラス】塾

西欧文化の窓口であった長崎は、今も道中でステンドグラスが溢れる魅力を見せています。かわいらしい作品から少し制作時間を要する物までを準備しておきますので、次を遊ばしてステンドグラスの魅力を体験してください。



修習メニュー

- 小作品（やけんステンドグラス）
- 時間：07:10-3:00から 09:14-00から（瀬戸焼部門）
- 料金は400円～
- 中作品（ペンタ、ライトなど）
- 時間：10:10-3:00から 09:14-00から（瀬戸焼部門）
- 料金は1,000円～
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。
- 50分～1時間限りのコースで3名まで体験できます。
- 1日限りのコースで3名まで体験できます。

1日限りのコースで3名まで体験できます。
小学・中学生は保護者同伴で体験いたします。
小学・中学生から体験できます。



2. 伝統工芸職人との連携

伝統工芸職人とのふれあい

教育普及グループリーダー 竹内 有理

博物館に併設されている貸工房では、べっ甲職人と陶芸家が常駐し作品の制作・販売を行っている。また週1回、佐世保の伝統工芸である佐世保独楽の職人が博物館に来て、作品の販売や実演・絵付け体験の指導を行っている。

長崎べっ甲は2017年1月に国の伝統工芸品に指定された長崎が誇る伝統工芸品の一つで、そのルーツは南蛮貿易の時代に遡る。べっ甲製品の制作の技術は中国人によって伝えられたとされているが、江戸時代を通じて長崎でも作られるようになった。女性の髪飾りから置物まで様々な製品が作られた。明治時代には外国人向けのお土産として人気を博し、べっ甲産業が繁栄した。

博物館の貸工房では川正べっ甲の2代目川口皓弐氏がべっ甲製品の制作・販売と体験の指導を行っている。工房内には材料となる貴重なタイマイの甲羅や製作に使うプレス機や鉄板、ノコなど様々な道具類も所狭しと並べられている。

毎週水曜日は、べっ甲に代わって、佐世保独楽本舗の3代目山本貞右衛門氏による佐世保独楽の絵付け体験工房に様変わりする。佐世保独楽は明治以降佐世保で郷土玩具として遊び継がれてきたもので、独楽の先端に剣（けん）と呼ばれる鉄が打ち込まれており、別名「喧嘩独楽」としても知られている。青（緑）、赤、黄、白、黒の5色で彩られた彩色は、中国の「陰陽五行説」から来ているともいわれている。山本貞右衛門氏はその伝統を受け継ぐ数少ない職人である。

貸工房ではプロの職人の仕事を間近で見ることができたり、話を直接聞くことができることが来館者にとって何より貴重な体験となる。職人のほうも来館者の反応や感想を直接聞くことができるので、それを製作に反映させることができるという。プロの職人と直接触れることも、伝統工芸に対する理解を深める重要な鍵であることは間違いない。こうしたプロの職人の技を見て、直接指導を受けることができる体験プログラムを教育普及活動の一環として行っている。

(1) 川政べっ甲製作所

教育普及グループ 古豊 裕次朗

1. 実施概要

博物館には、江戸時代に長崎でも作られるようになった長崎のべっ甲細工が体験できる「川政べっ甲製作所」がある。水曜日が工房の定休日です。土日祝日は開いており、開館以来博物館の工房にて製作、販売、体験を行っている。

べっ甲細工の実演や制作体験を伝統工芸まつりや夏休みイベントとして行っている。夏休みイベントとしては2007年度から始まり、1日5回の計3日間で常設展示室のべっ甲細工の見学と体験と合わせて40分で行っている。現在はべっ甲細工の原料である玳瑁たいまいの輸出入が禁止されており、川政べっ甲が保管管理している本物を使用している。ハートや十字、栗の形など好きな形に削り、ストラップやネックレスにできる。GWに行っている伝統工芸まつりは、1Fエントランスで伝統工芸の各塾と「川政べっ甲製作所」が販売と体験を行っており、べっ甲細工の体験は2Fの工房でも体験できるようになっている。

その他、学校の対応も行っている。今年1月には、東京からの修学旅行で来館した筑波大学附属視覚特別支援学校の生徒達に、べっ甲細工の体験をしていただいた。弱視～全盲と通常の学校対応よりも説明が難しい中で、べっ甲の原料である玳瑁たいまいの剥製や加工する前のべっ甲に触らせるなど、視覚以外からべっ甲を知る工夫をしていただいた。

教育普及活動以外にも、昨年の夏に博物館で開催した企画展「エヴァンゲリオン展」で、作中に出てくるロンギヌスの槍という武器を約30cmに縮小して展示品として再現していただいた。エヴァンゲリオンを知らない職人もご自身で勉強され、試行錯誤しながら完成していただいた。



イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
べっ甲細工	2006年1月6日(土)	場 所：伝統工芸体験工房 参加費：無料	13名
べっ甲細工	2006年2月5日(月)	場 所：伝統工芸体験工房 参加費：無料	—
長崎伝統の技 べっ甲体験	2007年8月10日(金) 13:00~14:00/ 14:00~15:00/ 15:00~16:00	場 所：1階エントランス 参加費：500円 対 象：小学生以上	24名
長崎の伝統工芸を体験してみよう！ べっ甲	2008年8月7日(木)、8日(金) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：1階エントランス 参加費：500円	80名
伝統工芸体験 べっ甲	2009年8月12日(水)、 13日(木)、21日(金) 10:30~/13:00~/15:00	場 所：体験工房	59名
伝統工芸体験 べっ甲	2010年7月26日(月)、 27日(火)、8月5日(木) 10:30~/13:00~/15:00~	場 所：体験工房	51名
伝統工芸体験 べっ甲	2011年7月21日(木)、 22日(金)、8月5日(金) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	81名
伝統工芸体験 べっ甲	2012年8月2日(木)、 7日(火)、17日(金) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	83名
伝統工芸体験 べっ甲	2013年8月1日(木)、 5日(月)、23日(金) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	148名
伝統工芸体験 べっ甲	2014年7月22日(火)、 8月7日(木)、12日(火) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	79名
伝統工芸体験 べっ甲	2015年7月30日(木)、 8月1日(土)、6日(木) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	85名
伝統工芸体験 べっ甲	2016年7月28日(木)、 8月2日(火)、25日(木) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所：体験工房 参加費：500円	86名

2. 成果と課題

希少価値が高いべっ甲細工の体験が博物館で体験できるとあって、伝統工芸まつり、夏休みイベントともに好評で、夏休みは定員を超える応募がある。開館当初から比べると、日数や回数を増やすなど、工夫しているが、お陰様で博物館での伝統工芸の体験も周知されおり、毎年応募者数が増えている。今後は定員を増やしたいところだが、工房内の作業台などなかなか現状では厳しい。職人と連携して、1人でも多くの方が体験できるように各塾の方とも話し合い、少しでも日数、回数を増やせないか努力している。



べっ甲への思い

川政べっ甲製作所
川口 皓式

遥か大航海時代シルクロードを渡って、長崎の港にやって来たべっ甲細工。そこに根付いた伝統工芸は、今も長崎歴史文化博物館に生きている。

べっ甲は遠く1400年前の隋の国から渡来し、正倉院の中に五弦の琵琶他多数のべっ甲製品があります。この宝物は、日本で出来た物ではなくほとんどペルシャ、中国他の国の品物です。その後、べっ甲は途絶え16世紀大航海時代に日本にやって来ました。それ以後、長崎から始まり今日に至っています。特に江戸時代に盛んになり、接着技術が進歩し素晴らしい品が出来ようになりました。明治、大正時代には、海外にも輸出されるようになりました。この時期大正時代私の父も創業し、私二代目と近々100年になります。戦時中原料が途絶えますが、昭和30年代より長崎の観光ブームにより盛んになってきました。その後、べっ甲のデザインも近代化し素晴らしい物出来るようになり、さらに技術も向上しました。

長崎歴史文化博物館に来てもう11年になり、当初より体験工房でやり始め大変人気を得ています。特にストラップ、ペンダント等は、ヤスリ、ペーパー研磨の仕上がりに皆さん大喜びされます。所用時間が1人20~30分位で、旅行の方は大変喜ばれます。本来べっ甲は接着技術が伝統工芸ですので、時間が充分あれば接着体験等も将来出来ればと思っています。それと、お客様が自分でデザインした物を作る事などを考えています。

博物館には、体験の予約、募集他色々を通じてお世話になっております。べっ甲の体験を通じて少しでも長崎の伝統工芸を皆さんに知って頂ければと思っています。最後に、長崎歴史文化博物館の増々の発展に期待を致します。



(2) 佐世保独楽本舗

教育普及グループ 古豊 裕次郎

1. 実施概要

博物館には、喧嘩独楽で知られる佐世保独楽の絵付け体験ができる工房がある。佐世保市に店を構える「佐世保独楽本舗」より職人の3代目山本貞右衛門氏が、長崎べっ甲細工の「川政べっ甲製作所」がお休みの毎週水曜日に同工房内で活動している。開館当初は、五島バラモン凧の体験工房と隔週交代で行っていたが、バラモン凧の職人の方が体調を崩されてからは現在のように毎週工房を開いている。

佐世保独楽絵付け体験は、教育普及の一環としてGWや夏休みにも行っている。GWのイベントとしては2007年度から、夏休みイベントとしては2008年度から始まる。当初は、博物館で工房を開く水曜日以外にも来ていただきイベントを行っていたが、現在は工房を開く日に合わせている。佐世保独楽は、赤、黄、緑、黒と決まった色が使われているが、絵付け体験ではその他に白や青、紫、ピンクなどの色もあり好きな色の絵の具を自由に絵付けできる。

天候に左右されるが、絵付け体験後は屋外にあるイベント広場で独楽回しの指導も行っており、参加した子どもはもちろんのことその保護者の方も独楽回し体験ができる。今の子ども達の親世代には子どもの頃に独楽回しを体験していない方も多く、職人の山本さんから習いながら子どもと一緒に何度も独楽回しにチャレンジする方もいれば、独楽回しが懐かしいお父さんは子どもに熱心に指導したり、子どもよりも夢中になっていたり、家族全員で参加でき楽しめるこの体験はとても意義があるように感じる。

イベント以外にも、「佐世保独楽本舗」の山本さんには学校対応でも協力していただいている。博物館では市内の中学生の職場体験実習を受け入れており、館内見学の際は工房の紹介もしている。佐世保独楽の普及活動に熱心な山本さんのご理解もあり、職場体験の実習生に佐世保独楽の説明だけでなく製作風景も見せていただき、ミニ佐世保独楽もプレゼントしていただいている。

その他、フリースクールの子供達を対応した際は、絵付け体験、独楽回し体験を通して子ども達同士のコミュニケーションを促したり、博物館と連携して教育普及活動にご協力いただいている。子どもからお年寄りまで楽しむことができるので、家族連れが多い土日祝日にも体験できたり、GWや夏休みだけでなくお正月などにも長崎の方が佐世保独楽に触れる機会をつくっていくため、今後も職人の山本さんと連携していきたい。



イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
佐世保独楽絵付け体験	2008年8月23日(土) 10:00~/11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 1階エントランス 参加費: 700円	44名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2009年8月5日(水)、19日(水) 11:00~/12:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	60名
佐世保独楽絵付け体験	2010年5月5日(水祝) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	1名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2010年8月18日(木) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	41名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2011年8月3日(水)、17日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	76名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2012年8月1日(水)、8日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	79名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2013年7月31日(水)、 8月7日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 700円	104名
佐世保独楽絵付け体験	2014年5月5日(月祝) 13:00~14:30~/15:00~16:30	場 所: 1階エントランス 参加費: 500円	41名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2014年7月30日(水)、 8月20日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 900円	70名
佐世保独楽絵付け体験	2015年5月5日(月祝) 13:00~14:30~/15:00~16:30	場 所: 1階エントランス 参加費: 500円	22名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2015年7月29日(水)、 8月5日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 900円	75名
佐世保独楽絵付け体験	2016年5月4日(水祝) 10:30~12:00/13:30~15:00	場 所: 1階エントランス 参加費: 500円	8名
伝統工芸体験 佐世保独楽絵付け体験	2016年7月27日(水)、 8月3日(水) 11:00~/13:00~/14:00~/15:00~	場 所: 体験工房 参加費: 900円	75名

2. 成果と課題

この絵付け体験は、GW、夏休みどちらも多くの方に参加していただき毎年好評である。幼児も参加できる体験のため、夏休みイベントでは定員の数倍以上の申込みがある。山本さんが博物館で工房を開く毎週水曜日に1日4回の計2日イベントを設定している。反省点は、他の体験やイベントなどの兼ね合いもありなかなか日数を増やすのも難しく、イベントとして設定していない日で工房が開く日を夏休みイベントとして体験できなかった方達にお知らせするしかなかったことである。次年度以降は少しでも体験できる方を増やそうと、博物館で伝統工芸体験を行っている各塾長とも年明けに話し合いと日程調整を行い、体験できる日や回数を増やすなど検討している。

子ども達が長崎の伝統工芸を体験したりその職人から教わったりと、他ではなかなか体験することができない経験が博物館ではできることを今まで以上にアピールしていきたい。佐世保独楽の絵付け体験、独楽回しの体験が長崎で体験できることの意義を、今後も山本さんと連携して教育普及活動に力を入れていきたい。



佐世保独楽色付けと独楽廻し体験について

佐世保独楽本舗
三代目 山本貞右衛門

2005年11月の開館より五島バラモン風の体験工房と隔週交代で、来館者の方へ博物館2階の伝統工芸体験工房にて9:30~/11:00~/15:00~の時間帯で、色付けと独楽廻しの体験を行っています。五島バラモン風の体験をされていた野原権太郎氏が体調を崩されたため(2012年1月永眠)、現在では毎週水曜日に体験工房を開いています。

文部科学省の指導では、全国の小学校3、4年生で社会の地域や郷土の充実した学習を行うようになっており、郷土の伝統文化を学ぶとの観点で佐世保地区では祇園小学校、白南風小学校、天神小学校、小佐世保小学校、柚木小学校などの3年生が佐世保市島地町に店を構える佐世保独楽本舗に見学に来ます。指導熱心な先生達のお陰で、佐世保独楽の製作工程の見学の際は授業ではみせないような真剣な眼差しで、見て、ちゃんと聞いて、疑問に思い、質問して、製作者の思い、地域との関係など色々と学習し、地域への発表が来ています。

長崎市周辺では、地理的条件もあり独楽の文化伝承が困難ななか、長崎歴史文化博物館では教育普及活動の一環として、「れきぶんの夏休み」の伝統工芸体験を行っています。夏休みの期間中に2日間、伝統工芸体験工房にて1日各回10名を4回合計80名の参加者で、学校では体験できないような興味溢れるワークショップを企画していただいています。参加者の多くは小学生が中心でその他未就学児や中学生がいます。子どものころに手を動かして何かを作った体験は、その子達にとって良い経験になっていると思います。この活動は、私達が地元で活動している内容とは違い、ワークショップ参加者は保護者と共に参加しています。轆轤での色付け体験を真剣な眼差しで楽しく行っており、多くの保護者の方々は今までこんなに真剣に物事に対する姿を見たことがないとよく言われます。独楽の色付け体験後の独楽廻しの練習では、夏の暑い中にも関わらず子ども達が保護者と一緒に練習している姿を見られ、日頃ではあまり見られない親と子が同じ物を共有し遊びを通じて色んな会話をして楽しんでいる姿を見られます。この様な貴重な時間を提供出来るのは、長崎歴史文化博物館との連携でとても良いものだと感じます。



色付け体験、独楽廻し体験の親と子の会話の中で、疑問に思ったことが独楽だけにとどまらず、子供達が伝統、文化など幅広く興味をもって質問が始まり、こちらが戸惑うなか親子が深い教養や学識がある学芸員の方との対話で子供なりに少し納得し、興味を持ってますます文化、伝統に関心を抱いて教養を深めていく姿をみると、博物館との連携を通して文化振興に貢献できる子ども達がこの中から将来生まれることを願っています。

最後に、学校施設とは違い地域と一体になり活動している長崎歴史文化博物館で、子ども達に色んなかたちでの文化、伝統を引き続き傳承していきたいと思っております。

長崎伝統工芸まつり 実施概要

	日時	内容	参加者数
第1回	2008年5月4日(日) 10:00~17:00	長崎の伝統工芸品の展示・販売・体験 (陶芸、刺繍、染め、ステンドグラス、銀細工、 べっ甲細工)※佐世保独楽参加の年あり 場所：1階エントランス	1,624名
第2回	2009年8月16日(日) 10:00~17:00		2,016名
第3回	2011年8月7日(日) 10:00~16:00		370名
第4回	2012年10月21日(日) 10:00~17:00		282名
第5回	2013年8月3日(土) 10:00~16:00		210名
第6回	2014年8月17日(日) 10:00~16:00		1,038名
第7回	2015年5月4日(月祝) 10:00~16:00		689名
第8回	2016年5月4日(水祝) 10:00~16:00		590名



(3) 陶彩 花と風

教育普及グループ 松岡 めぐみ

1. 実施概要

博物館内には現在、陶芸の工房が二つある。ひとつは開館当初から活動している、体験工房の長崎陶芸復興塾。そしてもうひとつ、本項で取り上げるのが、2016年4月にオープンした「陶彩 花と風」である。陶芸という同じ分野ではあるが、前者は現川焼の復興を目的とした地域の市民活動、後者は長崎出身で京焼のプロフェッショナルという違いがあり、それぞれに魅力ある活動をされている。

当館では、「花と風」の絵付け師である廣田友理氏に講師としてご協力いただき、これまでに下記の内容で関連イベントを行った。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
伊藤若冲と京の美術展 関連イベント 「京焼の絵付けの実演」	2014年 4月26日(土)・27日(日) 10:00~17:00	場 所：1階エントランス ホール	880名
「アール・ヌーヴォーの装飾磁器」展 関連イベント 「アール・ヌーヴォー風磁器の色さしに挑戦!」	2016年 11月26日(土)・27日(日) ①10:00~11:30 ②13:00~14:30	対 象：小学生以上 場 所：3階ロビー 参加費：1,300円 (別途観覧券が必要)	33名

工房では普段もろくろ体験等を実施されているが、博物館と協力する形でワークショップを行ったのは、「アール・ヌーヴォーの装飾磁器」展の時が初の試みとなった。計画段階で「鑑賞と磁器の体験」という大まかな希望をお話したところ、アール・ヌーヴォー様式の特徴である繊細な曲線を体験する絵付けにはどうか、下絵が描いてあれば小さな子供も絵が苦手な人も楽しめるのでは、など積極的にアイデアを出していただき大変感謝している。また館側の希望として、初めに簡単な展示解説の時間を取ることにした。技法や歴史を知ってから実際に手を動かすことで、やきものや展示テーマであるアール・ヌーヴォーへの興味関心がより深まり、博物館ならではの体験ができると考えたためである。

2. 成果と課題

「磁器の色さし」イベントの反省点としてはまず、参加者数が定員の40名に達しなかったことである。ちらし配布の他、テレビやラジオ番組の展覧会取材の際にも呼びかけを行ったがあまり効果が見られず、事前申込に加えて当日受付を行うことになった。当日受付での参加者は、作ることが好きだがイベントがあること自体全く知らずに来館したという人ばかりで、興味のある人に情報が届いていなかったことを痛感した。しかし実施中の様子やアンケートを見る限り、参加者の満足度は高かったようである。次はもっと大きなお皿に描いてみたい、下絵なしでもやってみたい、難しかったがもう一度挑戦したい等、意欲的な意見が多く寄せられた。終了後は、もっとじっくり見ようと展示室へ再入場する方もいれば、絵付けが完成して満足し、あるいは少し疲れてしまった様子ですぐに帰られる方もおり、それぞれに手応えを感じられたのではと思う。お知らせ方法には工夫が必要だが、これを足掛かりとして、博物館を訪れた人が「見る」だけに留まらず、もう一步踏み込んで伝統工芸を知るための機会を増やしていきたい。

職人の生の声を聞くことは、来館者にとっては貴重な機会であり、我々職員にとっても、知識を深め博物館の活動の幅を広げる鍵となる。伝統工芸の職人と博物館の学芸員という専門の異なる人間が協力することで、より実りある時間を提供することができるはずだ。初めはどうなるか分からない不安もあったが、自分

も楽しく過ごすことができた、という言葉が講師ご本人から聞いたことも非常に嬉しく思う。連携を通じ、この場所へ集まるすべての人にとってお互いに良い作用が生まれていくことを期待する。

「アール・ヌーヴォー風 磁器の色さしに挑戦！」参加者アンケートより抜粋

もとから下絵がかいてあるので色がぬりやすく、色合いもかわいくて、親切にしてくださいましたので楽しかったです。／しばらくぶりで集中することが楽しめました。展示会の説明をまず聞いてから次のステップに進むのはとてもいいと思いました。またやりたいです。／体験した作品をこちらで展示してはどうですか？／もう少し時間があれば、大きな皿（15cm）に挑戦したい。／初めてだったので、絵の具の濃さがわからなかった。もう一度挑戦したいです。／会場の案内説明後の絵付で、時間も忘れての良い時間でした。先生にもしっかりみていただき最高でした。孫と一緒にだったので、これからも話ができます。／とても子供達が興味を持てた。／アール・ヌーヴォーの色やデザインが好きで絵付けに興味がありました。チャイナペイントを少ししたことがあるのですが、全く違うやり方で、勉強になりました。



伝統技術を活かし、新しい形で地域の活性化や発展を志す

陶彩 花と風
絵付け師 廣田 友理

当店、陶彩 花と風は、京都で10年程職人として修行した轆轤師と絵付け師の夫婦が、地元長崎に戻り、2013年に築窯致しました。当初は、長崎市アルコア中通り商店街に位置しておりましたが、様々な方々との出会いとご縁があり、2016年4月1日に、長崎歴史文化博物館内2階工房に、工房兼店舗を移転し開店致しました。陶器や磁器、染付技法や色絵技法など様々な技術を取り入れ、長崎らしいオリジナルデザインの商品、お抹茶盃などの工芸品を、一つ一つ手作り手描きで製作し、販売しております。

移転以前になりますが、2014年「伊藤若冲と京の美術」展開催期間中の2日間、博物館1階エントランス中央で、京焼の絵付けの実演をさせていただきました。京都での修行時代、お抹茶盃の商品製作を中心としていた工房に勤めて参りましたので、茶盃が出来上がるまでの工程の一部・上絵付けを実演致しました。観覧にお越しの多くのお客様と対話し、伝統工芸を少しでも身近に感じていただけたと思えました。

2016年、11月「アール・ヌーヴォーの装飾磁器」展開催期間中2日間計4回、《アール・ヌーヴォー風磁器の色さしに挑戦!》のワークショップを行いました。絵を描くことに苦手意識がある方や、小学生からでも気軽にご参加いただける様に、こちらで製作したお皿に、オリジナルデザインの絵柄の輪郭線のみ絵付けし、焼成した物を御用意しました。計33名の方にご参加頂きました。展示を観覧してから絵付け体験という流れが、とてもスムーズに、世界感を残しながら、楽しんでいただけたかと思えます。女性グループや、親子連れの参加者も見受けられ、興味を持って参加されているお客様と、絵付けを通してお話しする時間を、ゆっくりと持つことが出来ました。

連携することにより、展覧会に絡めた企画も実践でき、興味があってもなかなか伝統の世界に踏み込めないお客様が、一歩近づいて頂けたのではないかと思います。また、館内スタッフにもご協力頂いたり、一度に多くの方に接することが出来る様に場所の提供もして頂きました。伝統工芸・伝統技術の枠にとらわれ過ぎず、新しいことに挑戦する、この様な機会を与えて頂き、感謝しております。

最後に、今後の課題としては、より気軽に伝統工芸品や技術を楽しんでいただける企画・発案、ワークショップの内容の充実、宣伝工夫努力。また、館内・2階工房にもより多くの人の流れが生まれるように、地域の方々・観光客の方々に向けた、新しく面白い取り組みを、長崎歴史文化博物館と連携をより強めていきたい所存です。



3. 利用者の視点から考える

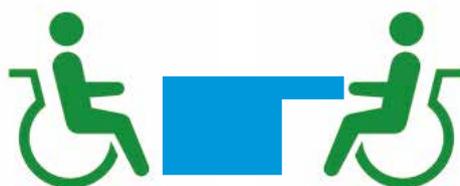
2016年4月施行の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（通称：「障害者差別解消法」）により、行政や事業者には、障害のある人に対する「合理的配慮」を可能な限り提供することが求められるようになりました。現在、私が勤務している学校でも、一人一人に応じた合理的配慮に関して、共通理解が図られているところであり、児童生徒一人一人の障害の特性や学び方に応じた手立てを考え、授業に取り組んでいます。合理的配慮に関しては、「行政や事業者」ということから、学校現場だけではなく、長崎歴史文化博物館をはじめとする公共機関でも求められてくるものだと考えます。

そこで、特別支援学校の児童生徒が博物館を利用するにあたり、博物館で考えられる合理的配慮について、特に伝統工芸体験を中心に考えていきたいと思えます。

活動スペースの確保

体験工房内にもう少しスペースがあれば、と感じました。車いすが一台移動できるスペースがあれば、肢体不自由の特別支援学校の児童生徒が十分に学習できると思えます。また、作業机の下にもスペースがあると、車いすを近づけることができ、活動がしやすくなると思えます。（図1）

（図1）



足元にスペースがないと活動しづらい

体験活動で用いる道具の工夫

伝統工芸体験では多くの道具を扱います。しかし、体験することを考えると、難しい点があると思えます。道具が小さかったり、持ち手が細かったりする点です。児童生徒によっては、握力が弱かったり、手のひらを十分に広げることができなかったりするなど、指先を使った細かい作業が身体機能的に難しい面があります。

介護用スプーンのように柄の部分太くしていただくだけでも、扱いやすくなると思えます。（図2）また、車いすの児童生徒の場合、テーブルまで届かないことも考えられるので、カットアウトテーブル（図3）や、画板のようなものを準備していただくだけでも、取り組みやすさが変わってきます。（図4）また、使い捨てのエプロン等の準備があると、非常に助かります。

（図2）



（介護宅急便 HP より）

（図3）



（日陶化学株式会社 HP より）

(図 4)

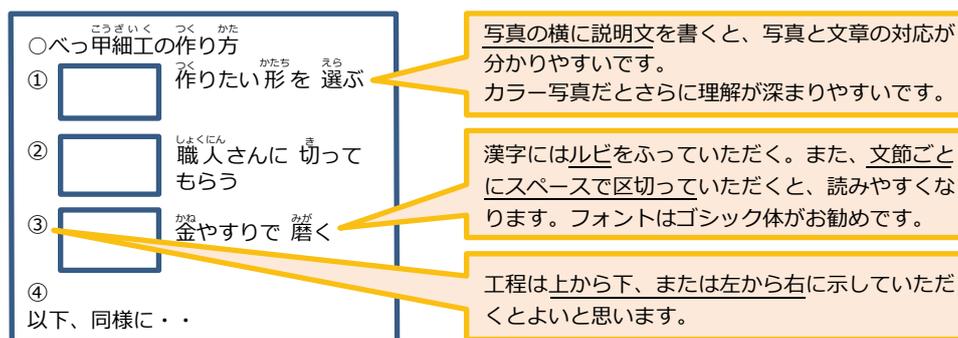


(快適空間スクリオ HP より)

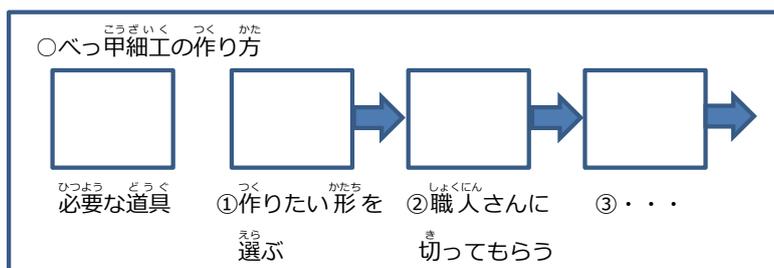
活動内容の説明時における工夫

工程に沿って各体験をしていくこととなりますが、口頭の説明だけでは理解することが難しいです。そこで、写真やイラストを用いて工程を説明していただけると、理解が深まりやすいです。その際には、写真と説明文の対応が分かりやすいようなレイアウトにさせていただくと、より理解が深まります。(図 4) (図 5)

(図 4 縦のレイアウト例)



(図 5 横のレイアウト例)



(図 4、5) は、プリント等だけではなく、パネルなどにさせていただくと全員見ることができ、良いかもしれません。口頭で説明する際には、上記のものや具体物を示しながらさせていただくと、内容が伝わりやすいです。その際は、文節ごとにゆっくりとした口調で言っていただくとよいと思います。

以上、簡単ではありますが、合理的な配慮の例を述べさせていただきました。このような配慮をしていただければ、特別支援学校の児童生徒は今以上に長崎歴史文化博物館で充実した学習ができると思います。また、「このような配慮をしています」「このような配慮が可能です」ということがあれば、ぜひホームページ等で告知していただきたいです。そうしていただくことで、「自分の学校の子どもたちも体験できる」と思う学校が出てくるのでは、と思います。子どもたちの学びのために、これまで以上に連絡を取り合い、連携しあっている関係を築いていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

視覚に障害のある児童・生徒の立場から見た長崎歴史文化博物館での体験活動について

筑波大学附属視覚特別支援学校
中・高等部 社会科教諭 鈴木 彩

2017年1月30日、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部2年生（全体17名、うち普通文字使用者10名、点字使用者7名）の修学旅行で、長崎歴史文化博物館を利用させていただきました。同博物館は、触覚・聴覚・嗅覚などを用いる体験コーナーが豊富に設けられており、視覚に障害がある児童生徒でも、長崎の歴史や文化を理解することができます。同博物館を見学するにあたり、配慮していただいた点は、以下の（1）～（3）にまとめられます。

（1）学びの目的を明確に

生徒は基本的に、一度にたくさんものを見ることはできません。したがって、限られた時間の中で何を学ばなければいけないかを明白にしておく必要があります、その内容は、物事の根本を理解するためのベーシックなものである必要があります。

（2）触れるもの・体験できるものがあるかどうか

晴眼者であれば、テレビなどから何気なく得られる情報からイメージを持つことができますが、それができない視覚に障害がある児童生徒にとって、「何かを触って確かめる」ということは、大きな意味を持ちます。ただし無作為に何でも触ればよいというわけではなく、（1）で述べたように、本質的な理解にたどり着けるような教材が必要です。その点、伝統工芸体験工房での銀細工・鼈甲細工体験は、どちらも物を触りながらじっくり取り組める体験だったので、視覚に障害がある児童生徒でも十分に楽しめるものでした。

鼈甲細工体験では、まず鼈甲とは何であるかということについて説明を受けたあと、鼈甲の原料となるタイマイの剥製を触り、大きさ・形・手触りなどを確認しました。生徒にとってはこれが新鮮だったようで、学校に帰ってから「あんなに大きい亀の甲羅が、小さな細工品になっていくんだ」という感想を述べていました。彼らにとっては「触らなかつたものはないものと同じ」ですから、それがあつたのとないのとでは、格段の違いがあります。

（3）小グループで見学を行う

集団で一斉に講義を受ける際、晴眼者であっても、頭の中に描くイメージはそれぞれで異なるはずで、視覚に障害のある生徒は特にそれが顕著であり、加えて、他の人が体験している場面を見て間接体験することはできませんから、説明についていけず置いてけぼりになる生徒が出てしまいます。集団をいくつかのグループに分け、それぞれに解説者がつくことで、生徒は教材を触って形を確かめながら解説を聞き、質問することができます。このような双方向のやりとりが理解を深めるのは、晴眼者の場合でも同じことです。

グループを分ける利点は、（2）とも関わります。触れるものが1つしかなかった場合、仮に17名の生徒が順番に触っていくとすると、時間を大幅に浪費します。グループに分かれて、仮に触れるものを3種類、1つずつ用意しておけば、各グループが同時に別のものを見ることで効率的に見学を進めることができます。

生徒の数だけ教材を用意できると、更に理想的です。複数の生徒が同時に同じものを触る場面では、説明も一度で済むので効率的ですし、生徒同士の発見もあつてとても盛り上がるからです。ただし、一

方的に説明しただけでは理解は深まりませんから、やはり双方向のコミュニケーションが重要です。

同博物館では、全体を通して小グループで行動させていただいたことが大変有り難かったです。鼈甲細工・銀細工の工房では、完成品を触らせて、どのように細工していけばよいかイメージを持たせたあと、一人ひとりの手をとって丁寧に説明して下さいました。職人さんのお手本も、ただやって見せるのではなく、その結果がどのように反映されるかをその都度手で触れて確認させながら進めて下さったのが、理解を深める結果になりました。

(4) 時間を担保する

時間をかけてじっくり取り組むことは、視覚に障害のある児童生徒の学習にとって不可欠な要素です。(1)～(3)で書いたことは、文字にすると簡単ですが、晴眼者が思っている以上に、触って・聴いて物事を理解することには、集中力と時間を要します。「晴眼者と同じ時間で、同じことを体験させる」ことを目標とせず、生徒の様子を見ながら体験を精選し、その本質を理解させることに注力するのが、視覚障害教育においては重要なポイントです。

博物館の見学を初日に入れたことで、生徒たちは様々な体験に入る前に、まず長崎の歴史や文化の全体像をつかむことができ、その後の活動により影響を与えました。複数の学芸員の方においでいただき、工房で体験できる最大人数の関係から、時間なども細かく調整していただいたおかげで、効率よく質のよい体験ができました。長崎歴史文化博物館は、特別支援学校の児童生徒も楽しめる、貴重な博物館です。関係して下さいました全ての皆さまにお礼申し上げます。ありがとうございました。



執筆者一覧

竹内 有理 (教育普及グループリーダー)
古 豊 裕次郎 (教育普及グループ研究員)
一 瀬 勇 士 (教育普及グループ研究員)
松 岡 めぐみ (教育普及グループ研究員)
鐘ヶ江 裕 美 (長崎陶芸復興塾 絵付講師)
嘉 勢 路 子 (「長崎刺繍」再発見塾 塾長)
松 尾 淑 子 (長崎の染塾 塾長)
小 笹 悦 二 (長崎やけんステンドグラス塾 塾長)
瀧 本 悦 子 (長崎銀細工研究塾 塾長)
川 口 皓 式 (川政べっ甲製作所)
山本 貞右衛門 (佐世保独楽本舗 三代目)
廣 田 友 理 (陶彩 花と風 絵付け師)
加 未 貴 彦 (長崎県立鶴南特別支援学校 教諭)
鈴 木 彩 (筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭)

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
- 長崎の伝統工芸を活用した教育実践 - 2005~2016

発行日：2017年3月31日
発 行：長崎歴史文化博物館
〒850-0007 長崎市立山1-1-1
Tel 095-818-8366
印 刷：藤木博英社



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

